

平成 30 年度第 2 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 30 年 10 月 2 日（火曜日）
時間・場所	15 時 30 分～16 時 45 分・本庁舎 3 階庁議室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、新井教育委員、増田教育委員、浅見教育委員 高野教育委員</p> <p>市長室次長兼地域政策課長、地域政策課主幹 2 名 教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、教育総務課長、 教育研究所所長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの高篠小の見学（会議前に市長・委員が共にプログラミング教育の出前授業を視察）ではお世話になった。 ・教育は変わっている、という印象を持った。プログラミングでコンピュータを動かすということよりも、考え方を身に付けるという本来の所を感じた。大変勉強になった。 ・基礎学力の低下を懸念している。色々と原因があると思うが、一つ一つ解決して、基礎学力を向上させていきたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長と委員との懇談を通して教育のあり方を考えていくこととしているが、プログラミング教育もそのテーマの一つである。 ・今日はフリートークの形も設けているので、ざっくばらんに意見をいただきたい。 <p>○議事</p> <p>(1) 前回までの議題に関する対応状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度第 2 回で取り上げた「伝統文化を大切にする教育について」、その後の対応状況の報告をお願いします。（市長） ・昨年 8 月の会議では、取組内容を市民にもっと広く知ってもらうことが望ましいという話になっていた。それを受け、今年度からは、民俗芸能大会・子ども伝統芸能伝道師称号授与式と秩父歌舞伎正和会定期公演を統合する形で開催したり、吉田小・中で子どもパワーアップ事業を展開するなどの取組を進めている。（教委事務局） ・吉田小・中の連携の具体的内容は。（高野教育委員） <p>→吉田小では、保存会や県職員の指導を受け、3 年生がミニ龍勢を作成している。吉田中では、2 年生が貴布祢神社神楽の伝承活動に取り組んでいる。（教委事務局）</p>

- ・先日の敬老会でも神楽を披露してもらっていた。普段の練習にも熱が入っている。(新井教育委員)
- ・大きなイベントも大事だが、地域の地道な取組は大事。よそからの人を巻き込んで継承していくようなことも必要と感じる。(浅見教育委員)
→龍勢についてもそのような要望を聞いている。塚越の花まつりにも同様な課題があるようだ。国も塚越の花まつりの価値に注目している。吉田全体としても、考えていきたい。(久喜市長)
- ・浦山の獅子舞も同じような状況にある。影森中で伝承活動に取り組んでいるが、今後の課題である。(教委事務局)

(2) 今後の課題と取組について

- ・資料1について教育研究所所長から説明。

[小学校におけるプログラミング教育について]

- ・2020年から小学校でのプログラミング教育が必修化
- ・「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」
- ・教員への研修を実施(9/4:秩父市ICT活用教育推進委員会)
- ・企業によるプログラミング教育出前授業の実施
(10/2:高篠小、10/11:荒川東小・荒川西小)
- ・プログラミング教育を初めて見た。子どもたちが目を輝かせて楽しんでいて、教材キットが1個1万円程度すると聞き、結構な金額になるが、これからの時代はそろえていく必要があると感じた。プログラミングは子どもも保護者も関心がある分野。教師側には教え方に対する戸惑いがあることを想像する。研修支援や教材等に対する配慮を願いたい。(新井教育委員)
- ・2020年から必修化と聞き驚いた。さらに教科が増えてどうなってしまうのだろう、というのが第一印象。子どもには都会と田舎それぞれの良さを知っておいてほしいと思っている。小さい時から実体験を通して論理的思考を養うという中で、コンピュータでできるものとコンピュータでできないものを両方とも大事にしてほしい。プログラミング教育もバランスを大事にしてほしい。一部、あくびをしている子など授業をつまらなく感じている児童もいるようだった。プログラミングを実体験に結び付けることが大事だと感じた。(浅見教育委員)
- ・2020年にはIT分野の人材が大幅に不足することが背景にあると聞いた。ITの基本は操作と論理的思考だと考える。私の近くにいた児童は楽しく学んでいた。グループで会話することも論理的思考につながる。

講師の IT エンジニアも、会話の大切さを話していた。相手があつての人間、社会的動物だということを改めて認識した。基礎学力については、プログラミング教育も語学も大切だが、私は「読み書きそろばん」が基本だと思っている。(高野教育委員)

- プログラミング教育の視察は非常に有意義だった。(思考、課題解決の過程を見るために) 意図的に 1 か所を注目して見ていた。論理的ツールとして必要だと感じる。論理的思考のさわりということになると思うが、今後避けては通れない極めて大事なものになると思う。今回のような授業はアウトプットになると思うが、基礎学力の向上にはインプットも大事。個人的にはインプットは孤独な作業だと思っている。IT ネイティブの世代になってきている。情操教育も大事だが、IT 無くしては生活が成り立たなくなっていることも考慮することが必要。(増田教育委員)
- 学校教育には不易の部分と流行の部分とがある。プログラミング教育は流行の分野。一方で、基礎学力の向上などバランスのとれた教育も重要。あまり流行を追いすぎるのも良くない。(倉澤教育長)
- 国はなぜプログラミング教育を進めようとしているのか。(久喜市長)
 - 国際的に IT 化が進んでいる中で、子どもたちが IT を使いこなせるような教育をしていく必要がある。(教委事務局)
 - 2020 年に新しい学習指導要領となるのを見据え、日本人が最も苦手とする論理的思考を養うという中で、プログラミング教育の導入がある。「プログラミング」という言葉は誤解を招く部分もある。趣旨としては論理的思考力を養うということである。(倉澤教育長)
 - アメリカでは手を使わずに (音声認識で) 電話を掛けていたし、中国ではスマホ決済が当たり前。道具を使うことは誰でもできると思うが、論理的思考力の養成ということであれば納得だ。「論理的思考」ということを前面に出した方が良いと思う。日本人の弱い所。アメリカ人は強い。今日はインパクトがあつた。(久喜市長)
- 必修化に向けて秩父市はどのように進めるのか。(高野教育委員)
 - 人材確保に課題がある。SE (システムエンジニア) 経験を持つ市職員の活用も考えたが、残念ながら難しいようだ。(久喜市長)
 - 9 月には教員向けの研修を実施した。今後、教科書関係の出版社等が教材を整備していく予定と聞いている。(教委事務局)
 - まだ方向性が明らかでないというのが実状。文部科学省も色々と考えているところ。様々な教材、パターンがある。教材キットについても、様々な業界の企業が色々作っているところだ。(倉澤教育長)
- 教材は全国で共通化されて、購入が義務化されるのか。(増田教育委員)

→基本的には学校単位での裁量になると考えている。(倉澤教育長)

- ・先生も何から手を付けたら良いのか分からないという部分があるだろう。(新井教育委員)
- ・英語教育が新たに入ったことにより、授業日数も増えている。1時間授業としてプログラミングを入れるという発想ではない。(倉澤教育長)
- ・今後、教育委員の皆様との間でも情報共有をしていきたい。(久喜市長)

(3) 教育全般について

- ・学校教育はバランスだと思う。インプットとアウトプットとのバランスが大事だ。インプットは孤独な作業という部分がある。(増田教育委員)
- ・不易の「読み書きそろばん」が核だと思う。秩父市は司書教諭の配置など、読書に力を入れている。そこは大事。基礎学力向上にもつながる。もっと力を入れていただきたい。(高野教育委員)
- ・一番大事なのは基礎基本で、家庭教育も重要だと思う。学習量が増えると学校の先生の負担増が心配。子どもと触れ合う時間を大切にしてほしいと思っている。あまり忙しいと先生と子どもの距離ができてしまうのではないかと心配だ。(浅見教育委員)
- ・はたから見ていて、先生が忙しすぎると感じる。外国語教育について教委に聞きたい。ALTを今年度から増員していると思うが、ALTと担任による授業は人員的に間に合っているのか。また、小・中で連携しているような取組はあるのか。(新井教育委員)

→現在は、32年度(新たな学習指導要領の全面実施)に向けた移行期間にある。今年度、ALTを8人から9人に増員した。小学校では担任とALTで対応している。小・中連携については、外国語教育が始まったころから、中学校の英語教員が小学校に出向くなどの連携をしている。(教委事務局)

→小学校から中学校への橋渡しも大切。学校現場には、外国語教育の他にも学力向上や不登校など色々な課題がある中で、今まで以上に現場は大変だと思う。指導主事の先生の増員などの配慮を、前向きにお願いしたい。(新井教育委員)

- ・子どもたちが「学校に行くのが楽しい」というのが一番大事である。教員もバランスが大事。メリハリのある教育ができればと思う。できる子を伸ばすと同時に、できない子には手厚い支援を行っていく。(倉澤教育長)
- ・基礎学力の向上については、子どもが自らやらなくてはならない部分もあり、習慣づけるということが大事だと感じている。学力調査結果については、家庭学習の状況を確認したいと思う。「予習復習」、これ

だけだと思う。予習復習をしっかりやれば、基礎学力は向上する。予習復習の習慣づけをお願いしたい。(久喜市長)

- 英語は既に「読み書きそろばん」と同様なものになっていると思う。これからの時代、英語がしゃべれないとやっていけない。「読み書きそろばん+英語」である。英語で重要なのは、発音と文法だと思う。文法がしっかりしていれば、中学英語レベルでも十分だと思う。発音はLとRの違いなどをしっかり教える。(久喜市長)
→私も文法と発音が大事だと思う。(増田教育委員)
→学校の先生の負担になりすぎないように取り組んでいきたい。(久喜市長)
- 家庭学習について、ほとんどの小学校で「学年×10分+10分」はできている。中学校が課題。小学校では教師主導型で家庭教育に取り組ませているが、中学では生徒の自主性に任せる部分があり、個人差が出る。勉強しなくても高校に入れてしまうという現状がある。(倉澤教育長)
→高校受験が目標になってしまうのも違うのではと思う。(浅見教育委員)
→キャリア教育も重要視しており、高校入試がゴールではない。様々な部分で、改革も必要だと感じている。(倉澤教育長)

○その他
特になし。

以上